

生ごみ減量

気軽にチャレンジ!

段ボールコンポスト

●段ボールコンポストって？

段ボール箱を利用した生ごみ処理容器のことです。

段ボール箱の中に土壌改良材を入れ、微生物の力によって生ごみを分解し堆肥を作ります。

●特徴

- 1 気軽に取り組める……電気を使用しないので省エネです。場所も多く取りません。
- 2 材料費が安い……段ボール箱と2種類の土壌改良材があれば簡単にできます。
- 3 薬品を使用しない……生ごみを入れてかき混ぜ、微生物の力だけで生ごみを分解処理します。
- 4 安全な肥料ができる……できた堆肥は、有機肥料として畑や家庭菜園で活用できます。

●準備するもの

・段ボール箱

みかんやりんご箱等「二重構造」の厚め箱（30 cm×45 cm×30 cm程度）※薄い箱は二重にする。

★段ボールは通気性がよく、生ごみの水分を逃がし発酵に必要な空気を通すのに適しています。

・ダンボールを置く台

直接地面に置かず台に乗せ、底面の風通しをよくします。（コンテナ、ブロック、苗ケース等）

・土壌改良材

・ピートモス…水苔やシダ類が堆積されてできた天然土壌改良材土。保水力を向上させ微生物が繁殖しやすくなる。

・もみ殻くん炭…もみ殻をいぶし焼きして炭化させたもの。通気性がよく微生物の働きを助け腐敗を防ぐ効果がある。

《量の目安》

ピートモス 15ℓ、もみ殻くん炭 10ℓ（箱の大きさに応じ3：2の割合で混ぜます）

※ 園芸店やホームセンターで購入できます。

・段ボール箱のふた

保温・防虫・防臭対策として、別の段ボールでふたを作るか、バスタオルや古布をかぶせます。

・シャベル

かき混ぜる時に使用します。



●容器の作り方

- ・段ボール箱の底の継ぎ目や隙間を、紙テープで貼る。（側面の穴もふさぎます）
- ・水分による底部の劣化を防ぐため、別の段ボールで底を二重に補強し耐久性を確保する。
- ・虫が入らないように、別の段ボールやTシャツ等を利用してふたを作る。
- ・風通しや日当たりがよく雨のあたらない場所に、底面の通気性を確保し壁から離して置く。
- ・ピートモス 15ℓ、もみ殻くん炭 10ℓ を入れ混ぜ合わせ、水 1ℓ 程度をゆっくり入れかき混ぜる。

さあ、今日から始めましょう！

●生ごみを投入しよう

- 1 箱の中の土壌改良材（ピートモス、もみ殻くん炭）をよく混ぜて、全体に空気を送り込みます。
 - 2 中心に生ごみを投入し、上に土壌改良材をかぶせます。
※1日の目安は、500g～800g程度（三角コーナー約2杯分）です。
 - 3 段ボールのふた、バスタオルやTシャツ等でふたをします。
- 毎日、上記の作業を繰り返すだけ！！
- ・生ごみを入れるたびに（生ごみを入れない日も）全体をよくかき混ぜ空気を中に入れます。
十分にかき混ぜることで、虫や臭いが発生しにくくなります。
 - ・すぐに分解は始まりませんが、1週間ぐらい生ごみを入れかき混ぜることを繰り返すと、温度が上がり水分が蒸発して分解が本格的にスタートします。

微生物が繁殖しやすい環境
・生ごみによるエネルギー
・適度な水分
・酸素

ポイント！
毎日かき混ぜてね



●投入をやめて堆肥にしよう

- ・3～4カ月投入すると、全体が黒っぽくなりかたまりが多く、温度も上がらず分解が遅く感じます。
- ・生ごみの投入をやめ、かき混ぜる作業を続けます。
- ・約3週間程度でサラサラ乾燥した状態になったら堆肥の完成です。

□できた堆肥は、土に混ぜて家庭菜園や花壇に利用しましょう。



●Q&A

Q) 何でも投入して良いですか？

A: 生ごみであれば、投入可能です。

野菜くず、果物の皮、茶がら、コーヒーかす、魚の骨や内臓、肉類、食べ残し、卵の殻、ごはん、消費期限切れの食品、菓子パンなど。※分解しにくいのは、鶏や豚などの骨、貝殻、トウモロコシの芯などです。

Q) 温度が上がりますか？

A: 天ぷら油などの廃食用油、米ぬか(一握り)、ご飯、砂糖の入った菓子などのカロリーの高いものを投入すると、温度が上昇します。※ただし油類は頻繁に入れると臭いがでます。

Q) 虫を寄せつけないには？

A: 箱の上部は、空気を通しやすい状態で隙間をなくします。

環境にやさしい行動を！

□白石町役場 生活環境課
TEL 0952-84-7118